

郷土の偉大な数学者

いなべ市長 日沖 靖

伊藤清博士（北勢町南中津原出身・京都大学名誉教授90歳）が、数学のノーベル賞と呼ばれるガウス賞を受賞されました。伊藤博士が昭和17年に発表した「確立微分方程式論」は気象学や遺伝学、特に、金融工学の基礎となり、現在の株式や金融取引の発展に大きく寄与しました。伊藤博士が「米国ウォール街で最も有名な日本人」と評されているのも、その故です。

今回の授賞式が京都大学で行われると聞き、数理解析研究所に問い合わせたところ、研究所の副所長が私の中学の2年先輩の岡本久博士（大安町石博南ご出身・京都大学教授）でした。岡本博士のご好意により、広中平祐博士（フィルズ賞受賞）等、世界的に著名な方々が参列される、ガウス賞の授賞式に参加することができました。

式典の中で「大学改革が進み研究の分野においても目先の成果が求められる風潮にあって、半世紀を越え、幅広い分野に影響を与えた伊藤博士の偉業は基礎科学の重要性を世に知らしめているように思います。」というような祝辞がありました。基礎を重視し、信念を貫き通した伊藤博士の生き方に、若い研究者への期待を重ねているようでした。全てが英語の式典で、聞き取れない点多々ありましたが、ユーモラスな素晴らしい授賞式でした。

伊藤博士は成人された後も一時、娘さんとともに南中津原に住んでおられたことがあり、お近くの方が、物資の乏しい時代、珍しい本やブリキのおもちゃがある博士の家によく遊びに行ったと懐かしく話しておられました。

今回、伊藤博士は体調を崩され、式典には出席されずビデオでの紹介でしたが、地元ご出身と言うことで少し誇らしげな気分になりました。

伊藤博士のガウス賞受賞にお慶び申し上げますとともに、今回大変お世話になりました岡本久博士に心より感謝申し上げます。



伊藤 清 博士

ガウス賞受賞記念行事の様様



ガウス賞受賞記念行事の様子（京都大学）

平成18年9月14日京都大学で、京都大学数理解析研究所主催の「伊藤清博士ガウス賞受賞記念行事」が開催され、残念ながら博士ご自身は体調を崩され、ご出席されませんでした。が、大学関係者並びに多くの研究者の方々が祝福に訪れました。

【ガウス賞とは】

いろいろな分野で数学を応用し、科学技術の発展や社会貢献したなどの業績に贈られる数学応用に対する最高の賞。国際数学連合が、平成14年に設立し、ドイツ数学者連合と共同で授与する賞であり、本年が第1回目。伊藤博士は初代受賞者となる。

めざましいなべ通!!

いなべ
検定入門
2

人の一生
学業から成人

子どもの成長は早いものですが、親は子どもの健康に気を使うことは今も昔も変わりありません。

昔懐かしい話として、最近では行われなくなりましたが、以前は数え年2歳と10歳になると天然痘の予防接種があり、それに伴った風習として棧俵に色紙を貼り、それを垣根の枝につるすことで『痘瘡の神を送りだす』という願いをこめた行事もありました。

また、学校では体内の回虫の駆除のために海人草を飲んだことも懐かしいのではないのでしょうか。これが大変苦かったことを今でも覚えています。

そして成人すると地区で一人前として認められる行事としてはいろいろとあったようですが、「青年会」とか「女子青年会」という組織があったこと（坂本では曳山車行事は青年会の大事な活動の一つでありました）や、厄年には「厄払い」をするなど、今ではめずらしい話が数多くあります。



ホーソ神送り（藤原町）／近畿の民間信仰（明玄書房刊）より